



## 東京学芸大学附属高等学校

### 第 16 回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第 16 回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

#### 1. 主題

#### コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発(2) - 「本質的な問い」とパフォーマンス評価の充実 -

現在、次期学習指導要領の改訂に向けて、様々な議論が成されています。特に資質・能力の育成という観点は、高大接続改革も巻き込みながら、教育界だけでなく、多くの注目を集めています。「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」などの語は教育改革の象徴として、マスコミなどでもよく取り上げられているのを目にします。

さて、本校では「本物教育」というテーマのもと、旧来より「教科の本質」に根ざした教育を実践して参りました。加えて、昨年度の第 15 回大会では、パフォーマンス評価を軸に置き、資質・能力の変容を評価する授業を提案致しました。それを受けて、今大会でも資質・能力の育成の観点からパフォーマンス評価を充実させていくことを目標にしました。5つの資質・能力を重点課題として設定し、それらの育成を実現するための教科ごとのカリキュラムを構築しました。今後、それぞれの教科のカリキュラムをベースに学校全体のカリキュラム・マネジメントが成され、より充実した本校のカリキュラムの構築を目指していきます。

#### 2. 日時・内容

平成 29 年 6 月 24 日 (土)

9:00      9:30～9:50      10:00～10:50      11:05～11:55      12:45～14:15      14:30～16:00

受付	全体会	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ	昼休み	研究協議会	休憩	シンポジウム
----	-----	----	-------	----	-------	-----	-------	----	--------

#### 公開授業Ⅰ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授 業 概 要
公民	現代社会	楊田龍明	TOKYO 2020 を機に、社会を変えるには!? ～主体的・対話的な深い学びのプロセスと社会起業家マインドの育成～	「2030 年の社会にどのように関わり、より良い人生を送るのか」を本質的な問いとして掲げた。シッティングバレーボールを題材に多様な人々を巻き込み、アイデアを共に発想し、課題を解決する力を養いたい。
数学	数学 B	佐藤亮太	科学的なプロセスで問題解決する力を育む授業 一数列を題材として一	数列の漸化式を題材に、数学的プロセス「目的に応じた式変形」の質を高めることを意図した授業を行う。また、その質が高まったかどうかをみるパフォーマンス評価を提案する。
理科	地学基礎	田中義洋	岩石が語っている言葉を聴こう!	岩石をただ観察しても、本校の目指すキー・コンピテンシーは育成できない。そこで、コンピテンシー・ベースに授業設計を変えていくと、どのような授業になるのか、授業者自身も模索しながら、当日の授業を迎えたい。
理科	化学	坂井英夫	科学的な手法で考える 「マンガン平面電池の製作と評価」	15 分程度で製作できるマンガン平面電池を作製し、その電池の性能をモーターで動く車で評価します。優れた性能を持つ電池を作製するために、どのような工夫をすればよいかを考察し、その成果を発表します。
保健体育	体育	栗原鏡成	女子サッカー (フットサル) ゲームの工夫と評価	初心者の多い女子生徒が自分たちの技能に応じてゲームを進行し、戦術を工夫する。その活動を、ルーブリックにより、パフォーマンス評価を行う。
芸術	工芸Ⅱ	神田春菜	国際交流のかたち ～想いを伝える風呂敷作り～	工芸の社会的な働きや、機能と美しさの調和のとれた表現による社会をよりよく改善する工夫について考えることをねらいとし、「本校と関わりの深いアジア諸国に感謝や友好などの思いや願いを込めて送る風呂敷を制作する」という課題に取り組む。
芸術	音楽Ⅱ	居城勝彦	自分の音楽史を語る・奏でる	これまでの自分と音楽との関わりを見つめ直し、学校という場で音楽をしてきた意味、そしてこれからの生涯での音楽との関わりなどを考える。それをもとに仲間と語り、演奏し、鑑賞することに取り組む。

芸術	書道 Ⅱ	荒井一浩	古代文字の魅力を探る	篆書の文字構造や書道史上の位置付けを理解し、文字が残された目的や用具・用材、文字の姿態との関連を考える。そして、毛筆という表現性豊かな用具を用いて古代文字の魅力に触れ、現代の通行書体にはない造形美を体験する。
外国語	英語表現 Ⅱ	光田怜太郎	グループワーク表現活動 ～留学生を交えたディスカッション～	複数の外国人留学生が少人数のグループに入り、生徒は与えられたトピックについて英語を用いて話し合う。グループワークの一形態を示すとともに、高校における表現活動の在り方を探る。

## 公開授業Ⅱ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授 業 概 要
国語	古典 B	浅田孝紀	記録的な文学に見られる言葉の重みを考えよう - 「養和の飢饉」(『方丈記』における「あさまし」の含意-)	軍記物語・随筆等の記録性が強い作品では、作者(語り手)の思いを味読できる箇所が多い。今回は『方丈記』の「養和の飢饉」を題材とし、作者の実体験に基づく記述の文脈における「言葉の重み」を考えさせたい。
地理歴史	地理 B	栗山絵理	EUのその向こう ～統計が変わっても世界をとらえる目を養う～	「地理探究(仮)」を見据えて、静態地誌的な方法で獲得した知識や考え方を活用し、動態地誌的な思考の形成を促すことに挑戦したい。社会経済的な観点からヨーロッパの諸地域に焦点をあてる工夫をした地誌学習を目指す。
数学	数学 I	菅原幹雄	課題を発見する力を育む授業 -二次関数を題材として-	GeoGebraを用いることで、グラフの位置関係と係数との関係を作業を通して見出していくことを目指す。そのような授業展開を通じて、課題を発見する力を育成することを狙う。また、そのパフォーマンス評価を合わせて提案する。
理科	化学	坂井英夫	科学的な手法で考える 「マンガン平面電池の製作と評価」	(公開授業Ⅰより継続)
保健体育	体育	栗原鏡成	女子サッカー(フットサル) ゲームの工夫と評価	(公開授業Ⅰより継続)
家庭科	家庭基礎	阿部睦子	エプロン製作を通して消費者の視点を考えよう	本授業はエプロン製作の終盤の時期に当たる。丁寧に作ることの意味等、製作したからこそ理解が深まる知識や価値について話し合い、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを展望させたい。
外国語	英語表現 Ⅱ	光田怜太郎	グループワーク表現活動 ～留学生を交えたディスカッション～	(公開授業Ⅰより継続)

## 研究協議会

教科	研究テーマ	提案者	助言講師	所 属
国語	語り手の思いを協同で読み深める授業	浅田孝紀	渡辺貴裕	東京学芸大学 教職大学院 教育実践創成講座 准教授
地理歴史	これからの地誌学習のあり方 -ヨーロッパを題材に-	栗山絵理	加賀美雅弘	東京学芸大学 人文社会科学系 地理学分野 教授
公民	新科目「公共」と社会起業家マインドの育成	楊田龍明	渡部竜也	東京学芸大学 人文社会科学系 社会科教育分野 准教授
数学	資質・能力を育む数学の授業とパフォーマンス評価	数学科	熊倉啓之	静岡大学 学術院教育学領域 教授
理科	理科におけるパフォーマンス評価の実際	理科	宮内卓也	東京学芸大学 教育実践研究支援センター 教育実習指導部門 准教授
			澤口隆	東洋大学 経済学部 教授
芸術(工芸)	「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連の中で思考力・判断力・表現力等が育む指導方法と学習評価の工夫について	神田春菜	東良雅人	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
芸術(音楽)	高校生にとって自分の音楽史を語る・奏でることの意味とは何か	居城勝彦	中地雅之	東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 音楽科教育学分野 教授
芸術(書道)	育成すべき資質・能力を明確にした書道授業	荒井一浩	加藤泰弘	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
家庭科	家庭基礎で考える消費生活と生産体験	阿部睦子	鳴海多恵子	東京学芸大学 生活科学 名誉教授
保健体育	体育における真正の問いと評価	栗原鏡成	渡辺雅之	東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 健康科学分野 教授
外国語(英語)	高校における表現・発表活動	光田怜太郎	金谷憲	東京学芸大学 英語科教育学 名誉教授

## シンポジウム

テーマ 探究活動を通して「パフォーマンス評価の充実」を考える

発表者 仲矢 史雄 先生（大阪教育大学科学教育センター准教授）

協力校 お茶の水女子大学附属高等学校・東京都立戸山高等学校・横浜サイエンスフロンティア高等学校 ほか

次期学習指導要領の改訂で注目される探究的な学び。SSHやSGHなどの活動にて探究活動を熱心に取り組んでおられる上記の高校の先生方をお招きし、探究的な学びの可能性について議論を深める。また、探究活動や授業におけるパフォーマンス評価の重要性について考える。

### 3. 場所

東京学芸大学附属高等学校 〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

### 4. 参加費

無料（資料により実費をいただく場合もあります。）なお、お弁当を注文される方は、当日、1000円を申し受けます。

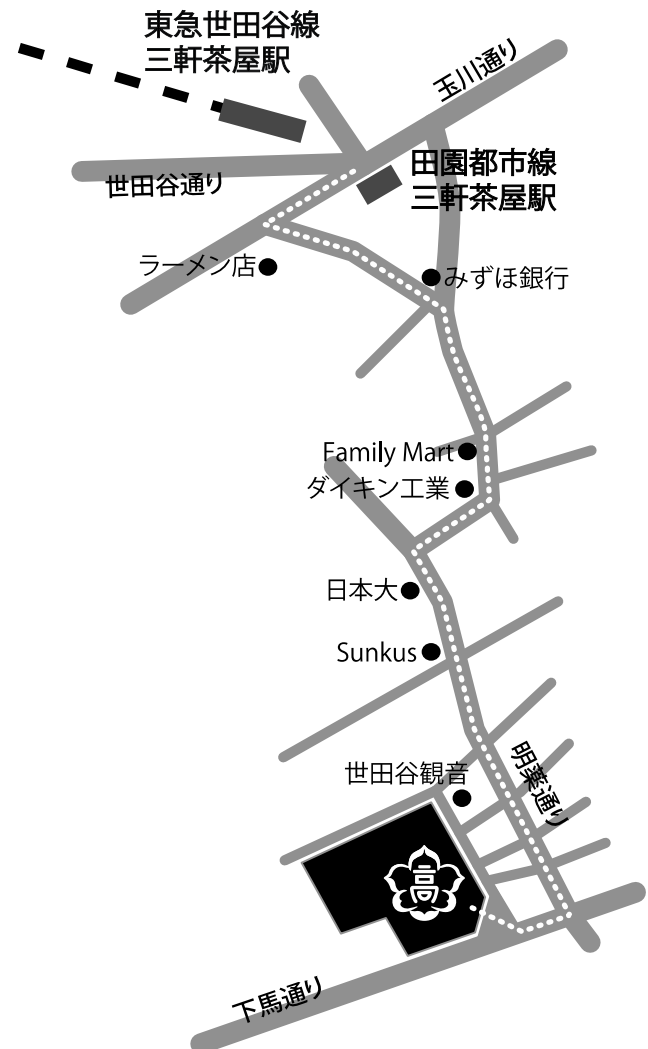
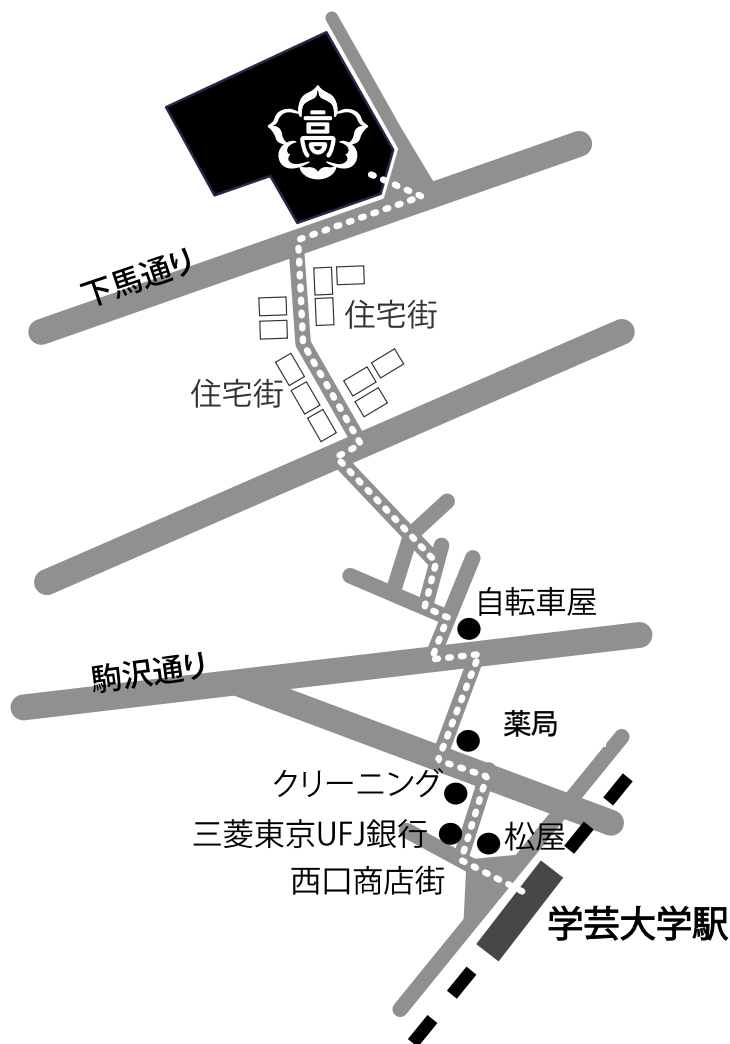
### 5. 参加申込

参加ご希望の方は本校ホームページ（<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>）、またはFaxにて前日までにお申し込みください。

### 6. 東京学芸大学附属高等学校へのアクセス

電車 ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩15分

・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩20分



### バス（東急バス）

- ・【渋谷駅】南口「野沢龍雲寺循環」行き 「東京医療センター」行き 「多摩川駅」行き
- ・【目黒駅】西口「三軒茶屋」行き
- ・【三軒茶屋駅】「目黒駅」行き ※いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩1分

### 7. その他

詳細は本校HP（<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>）に順次公開致します。

問い合わせは、下記までお願い致します。

東京学芸大学附属高等学校 〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

TEL：03-3421-5151(代) FAX：03-3421-5152

E-mail：gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp（担当：研究部 齋藤 洋輔）

